

「平成30年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議」 地域課題の解決策（案）

課題	瀬戸介護事業 連絡協議会	瀬戸市シ ルバー 人材セン ター	瀬戸市社会福祉 協議会	地区社 協 会長連 絡会	瀬戸市老人 クラブ連合 会	瀬戸市自治連 合会	瀬戸市民生委員 児童委員協議会	まごころ	やすらぎ 地域包括 支援セン ター	キーワード
① 担い手不足	総合事業研修の一環である事業社内研修者の受け入れを行い、介護は「誰にでも支援できることがある」を知ってもらう。仲間作り。	地震対策で家具の転倒防止を取り付ける簡易な作業を担うことが考えられる。ただし、その方法、費用負担など検討すべきことがあります。	社会福祉協議会では、ボランティアセンターを運営しており、およそ1900名のボランティアが登録をしている。また、地区社協として18地域の皆さんの協力の元、福祉活動を展開していただいている。しかし、担い手不足は、深刻となっている。そのため、地域や住民のニーズにあった担い手の養成や魅力ある活動の啓発を行い、新たに活動していただける方を増やしていく取り組みを進めた。	後継者不足(長根地区社協)	市内には単位クラブが49チームあります。会員は約2,400名です。各クラブで発生する事項は、リーダーが決めてありますので、その者が取りまとめます。	今日に至って起きた問題ではなく以前から叫ばれてきたテーマでありながら問題を軽視してきたからより以上に難題になって表面化してきたとみるべきで、各団体とも悩みは同じであろうと思います。そこで連合自治会としては連合自治会としての諸活動を原点に戻って見直す事とし、改革組織を立ち上げる事とした。	福祉の担い手や拠点づくり確保は相当難しい。①この場合、地区社協や民生委員・自治会が該当するが対応する余裕がないのが現状。②商業関係者に協力を求めるのも一案ですが、買い物難民地区にはその関係者さえもない。③NP0活動も期待されるが、本市では数は多くない？また、利用者は馴染みがないのではないかと。④拠点づくりは安易に空き家利用を思い付くが、上下水道や電気、ガスなどの再開（再契約）、家の損壊や火災保険など思わぬ経費が掛かることになる。⑤行政がこのような拠点（居場所）を小学校区に最低2か所作り、市役所の再任用者を管理者に充てることにすればよいと思われる。ただし、経費は掛かる。この拠点に生活必需品（野菜・果物等）を届けることにすれば業者は各戸に配達する手間が省ける。一軒家の拠点を単なるボランティアが管理するのは危険すぎる。⑥小グループの居場所ならば親しい者同士なので運営は簡単だが、人数が増えると難しくなる。⑦担い手の発掘・確保は難しいので、上記のような手立てで対処してゆかなければならない。	1層、2層、3層と連携が必要。そのうえで地域と密につながり地域連携で担い手を拾い上げていく。地域と一体となり、「どんなことが不足しているか」「必要なものは何か」「今あるものは何か」をまとめ、できること、できないことを整理し、必要なものについて地域でできる人探し。研修ばかりやってもあまり人材は確保できないため、具体的な課題を示して個別にできる人探しをする。（例えば住民バスの運転手確保、助け合いの担い手確保、隣の方の電球交換やゴミ出しの人材確保など）	先の課題に対して、地域ケア会議等で課題が起きている要因を抽出し、具体策検討に対する提言を行う。具体策が事業化された時の周知、啓発、コーディネートを行う。	<ul style="list-style-type: none"><li>仲間作り</li><li>簡易な作業を担うこと</li><li>魅力ある活動の啓発</li><li>個別にできる人探し</li><li>改革組織を立ち上げる事とした</li></ul>
② 移動の問題	介護事業者において、介護サービスとして移動支援を行っている。ただし、契約者のみであるのが現状。介護保険外の方々については、今後の検討課題である。		地域住民の支えあいを促すためにも歩いて行ける範囲に集える居場所（よりどころ）の推進を図るとともに、地域担当職員が移動の問題など地域の課題・困りごとの集約を行い、問題解決に向け、地区社協を中心とした地域住民と問題解決を図る関わりを進めていく。	長根老人クラブ会長の協力のもとに実施(長根地区社協)	移動とか買い物については、一人暮らしの人に最大の協力をするので、心配は解消すると思います。	各地域間での温度差がありすぎるので、その実態を十分に把握した上で徐々に前進させてゆく事とする。	先日、85歳の高齢者が運転する車が瀬戸信用金庫本店へ突っ込んだ報道がありました。超高齢者が車を運転しなければならないような社会は、行政の遅れではないかとコメントがインターネットであった。高齢者の住民が無理をして移動しなくてもよいような施策が必要ですが、現実には程遠い。①名古屋市のような敬老バスを行っても瀬戸市は利用する交通機関がありません。②現行のコミュニティバスも運行経路に問題がある。コースが細分化されすぎのようです。③基本的なコースは、各地から【記念橋：買い物、追分：病院】の2コースでよいのではないかと。JR／名鉄の営業権対処必要。④他は店舗の巡回コースを計画してほしい。⑤社協を始め近隣住民が自家用車で高齢者の送迎を行うには、事故等の問題があり現実には限定的になる。同乗の選択肢もあるが、事故等の対応が難しい。⑥（福祉）タクシー利用が良いと思うが、費用の問題もあります。（親族負担は？）	菱野団地は自治会と行政の協働で住民バスを運行している。瀬戸市のコミュニティバスと連動しもっと便利に使えるようにするほか、土日の運行を望む声もある。（現実にはそうはなっていない）もっと気軽に移動手段を確立することが必要である。まごころはミニデイや、サロンへの送迎は行っているが、ボランティアや一般の方の個別の支援にはなっていない。電話1本で迎えに行くオンデマンドサービスができるとよい（タクシーではない）但し人材（ボランティア）と車が必要。	①と同様	<ul style="list-style-type: none"><li>介護サービスでの移動支援</li><li>居場所(よりどころ)の推進</li><li>一人暮らしへの協力</li><li>住民バス</li><li>オンデマンドサービス</li><li>同乗の選択肢</li><li>(福祉)タクシー利用</li></ul>
③ 買い物支援	②と同様である。買い物支援も行っている。		社会福祉協議会では、買い物に困るというニーズを地域とともに考える機会として、今年度、モデル3地区（東明・古瀬戸・品野）で買い物バスツアーを実施した。来年度についても買い物に困るというニーズを地域が把握するための一環として老人福祉センターの送迎の合間の空き時間を利用したバスの貸出、実施の支援を行い、自治会や地区社協等の各種団体と「買い物支援」を考える機会を提案していきたい。	長根地区社協婦人部(長根地区社協)	一人住まいの会員さんには声掛けをしていますので、その時に会員さんが困っている買い物等がありましたら協力することです。	②と同様	上記②と同様です。大型店舗の郊外進出によって、既存の小規模小売業が全滅してしまうケースは全国にあるが、採算が悪くなると撤退してしまう。このような勝手な経営はさせてはならない。出店の時に営業時間を設定して守らせる。①地域内に店舗があっても、夏冬の暑さ寒さ、また荒天など高齢者には利用し難いことがある。②生協などの予約制訪問販売、スーパーマーケットの配達制度などがあるのでこれらを利用しやすいシステムを作る。（申し込み手続きが難しい）③地域のコンビニ等に生活食品を置いてもらう。（最近はこのようなところがやや増えつつある。）④食料品店に品物を届けてもらうよう依頼する。（昔の御用聞き）⑤近所の人が買い物に行くときに一緒に連れて行ってもら。（事故等、依頼し難い）⑥社協、民生委員、自治会等で買い物ボランティアを結成する。（同乗はしない）⑦店舗の巡回バスを計画する。⑧行政主導で店舗を誘致する。	まごころ利用者からの要望で買い物ツアーに取り組んでいる。人材（運転手）と車の確保があればもう少し大勢の買い物ツアーができるが、現在は5名が限度。月1回でよいが日頃行けないところへの買い物がしたいとの要望がある。買い物と回転ずしに行きたいとの要望もありぜひとも希望をかなえてあげたいと計画中。（日頃やりたくてもできないことをかなえる）利用が増えとうれしいが、悩みも増える(団体として)	①と同様	<ul style="list-style-type: none"><li>介護サービスでの買い物支援</li><li>空き時間でのバスの貸し出し</li><li>一人暮らしへの協力</li><li>買い物ツアー</li><li>生協などの予約制訪問販売、スーパーマーケットの配達制度など</li><li>地域のコンビニ等に生活食品を置いてもらう</li><li>食料品店に配達を依頼（昔の御用聞き）</li><li>近所の方と同乗</li><li>買い物ボランティアの結成</li><li>店舗の巡回バスの計画</li></ul>

